

平成二十六年年度の新人事決まる

去る三月二十三日の例会日の総会において二十六年度の新理事の選出を行い、皆様のご賛同を頂き次の方々に役員をお願いすることとなりました。
次の二十七年度はAAFCの創立二十周年に当たり、会員各位のご協力とご理解を頂き様々な記念事業を計画し実行の予定です。
これからのAAFCの益々の発展、充実と会員各位の豊かな音楽生活を送れるよう新役員一同一丸となつてお役に立つて行きたいと思つていきます。
会員皆様の更なるご協力とご理解をお願い申し上げます。

- 会長 佐藤 久男
副会長 脇田 隆夫
幹事長 山本 一成
理事(編集総務) 倉田 勲
理事(総務) 福林 羊一
理事(行事) 後藤 榮一
理事(技術) 鳥居 康信
理事(会計) 大久保 貴枝子
理事(行事・技術) 林 英彦
理事(ウェブマスター) 山崎 光明
理事(ウェブアドバイザー) 堀端 俊雄
顧問(会へのアドバイス 資料提供) 高橋 敏郎

『オーディオと私』

◎初期段階 方針

東京市(一九四三年まで)大森区生まれ。利根川の北、茨城県北相馬群利根町に在住です。
小中学校では定番の音楽教材やら友達宅にあるクラシック小品に接しました。
手に入る音源はNHK音楽放送のみ、勉強しているフリして自作ラジオのヘッドフォン、日曜日は堀内敬三氏の「音楽の泉」、週日午後は野球中継が雨で流れると音楽になり楽しみました。図書館にあった

雑誌に記載の「民族音楽と大衆音楽に触れるべし」に開眼、アルゼンチン・タンゴ研究に着手しました。
初めての本式な美演鑑賞は、兄に連れて行ってもらった日比谷公会堂、モーツアルトのクラリネット協奏曲イ長調K. 622でした。
モダン・ジャズは産経ホールにて「MJQ」をタンゴは「坂本政一とオルケスタ・ティピカ・ポルテニア」を至近距離にて聴き、それぞれ現場の様子を把握しました。

◎オーディオ、現場経験

自作オーディオは「電気音響工学」等を履修して怖じ気がつき「演奏現場の再現」は早々に諦めて「現場を想起できる再生」を目標に装置をまとめてきました。
まず社会人になって独身寮住まい。
残業、一杯、麻雀のない夜はオーディオで過ごしました。アンプ類は当然自作、FMチューナは重要部品のみ購入し一日で完成でした。
同趣味の寮生とは相互訪問にてMJQの次に「平均率」など常態、カートリッジやLPの貸借、装置の修理・改造、コンサル?等が一段落すると、音楽談義から酒盛りでした。
独身時代に職場の部活でウッドベースを練習、ハワイアン・バンド/デキシーランド・バンドのベースを担当してリズム感覚を何とか身に付け、さらにマンドリン・ギター・アンサンブルのコントラバスを担当、タンゴやラテンバのリズムマシンを果たしました。

◎ジャンル、入会

その後所帯を持ち、カセットデッキが実用化された頃に自作オーディオに復帰してFMエアーチェック、その後CDに移行しました。
装置の現状は三系統のFM/CD、LPは一系統。スピーカはベースを聴くよう調整、ユニット交換・修理にて保たせています。
一九八〇年頃、作編曲を勉強したプレイヤーが「私はこうやる」と殆どの曲がオリジナルにて自作自演するフュージョン/スムーズ・ジャズのユニークさ新鮮さに目覚めました。

どの曲も「初聴き」であり、チョット聴きはソフトなので納得した気分になります。そこからが大変、聴く度に変わりに耳に馴染むまでのリピートに時間が掛かります。
一九九八年秋に知人に誘われてAAFCの年次対外活動コンサートを偵察しに伺いました。

◎記憶と鑑賞

機材デモCDに「Our play」を再生した会員が居られて感動、即日入会しました。
先人の作品を演奏する形態はクラシック等にては通例です。
通常定められた一曲につき多種の演奏を鑑賞する「演奏比較」が行われます。編曲を伴う場合は、ポピュラー系では「カバー」と呼び、別名とする例も多いようです。この他に同一作曲家の作品間では似る例が多発、師弟関係がある場合には先輩から後輩に影響が現れたりします。
既知曲を鑑賞する際、記憶を検索し脳内にて再生し、聴取例と比較し補足して鑑賞をより豊かにすると考えられます。
初めての曲は準備がなく若干の違和感がある訳です。

◎類似曲への反応

鑑賞曲を指定した演奏比較では、雑念の余地が無く類似曲連想は起きにくいでしょう。
私には鑑賞中の曲に対して、類似の曲が偶然に想起というより自然発生する場合があります。
意識下にあった類似曲が「曖昧検索」にて浮かび上がったもの、検索機能の誤動作ではないと考えます。なお一旦感知すれば意識して鑑賞曲とは区別します。
また手ぶらのウオーキング中での類似曲発生が数例あり、機器再生環境が発生条件ではないこと、脳内再生の平行操作は困難であるから、再生に同時性がなくても比較が可能:

一小節など短く切つての逐次比較などでも可能らしいことを意味します。
いずれにしても、予め一方または両方のメロディ記憶がないと発生できないこと、さらにまた両方の曲名を特定できないこと「類似セット」としての情報が完結しません。

メロディからの曲名遊及とは記憶以外は一般に困難ゆえ、曲名メロディ記憶の他にメロディ曲名と、双方方向のセット化記憶を要し、結果的に鑑賞深化に寄与します。
また今日では曲名から演奏例が検索・参照可能であり、曲名記憶が最重要となります。
曲名メロディ記憶および鑑賞との関連につき環境条件等を分析してみました。
本件は「音楽聴き過ぎ」との叱咤激励を頂き、深謝し一層の分析を心がけます。

とりとめのない拙文にて大変失礼ながら、お読み頂きありがとうございます。
以上

宇多 弘

